

2023年3月17日 第3424回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 前田 会長
<斉 唱> 「それこそロータリー」 ソングリーダー 佐久間博一 会員
<ゲスト紹介> *RI第3360地区チェンライロータリークラブ元会長
アカ族子供就学支援基金(日本)代表/
タイ国立ダムロン高校(日本語、日本文化担当)ボランティア教師
神戸市教育委員会 生涯センター (国際関係論) 講師 原田 義之 様
*国際ソロプチミスト横須賀 会長 小林 純子 様
*国際ソロプチミスト横須賀 会長エレクト/
リジョン資金調達ケア 渡辺 史子 様
*国際ソロプチミスト横須賀 会長ノミネー 町田 久子 様
*米山奨学生 王 冠博 様
<ビジター紹介> *秦野中ロータリークラブ 会長 小野 良太郎 様

<ソロプチミスト夢プログラムへの募金のお願い>

<会長報告> *ガバナー事務所より

- ・青少年交換 派遣候補生オリエンテーション開催のご案内について
4月 1日(土) 15:00~17:00 場所: 第一相澤ビル8F「会議室」
- ・2023学年度新規米山奨学生及び継続学生のためのオリエンテーション
開催のご案内
4月 9日(日) 13:00~15:30
場所: 第一相澤ビル3F「受付・登録」8F「全体会議」
- ・2023年地区研修・協議会開催のご案内について
4月23日(日) 11:00~12:00 登録 12:00 点鐘
場所: 東海大学湘南キャンパス

*米山奨学生カウンセラー齋藤眞且会員への委嘱状の授与

氏 名: 李 世林(イセリム)さん 性別: 女 国籍: 韓国
大 学: 神奈川歯科大学(課程: 歯学6年) YU
奨学期間: 2023年4月~2024年3月

<委員長報告> *社会奉仕委員会 加藤(淳)委員長より

10,000メートルプロムナードクリーン作戦活動報告

<幹事報告> *ガバナー月信 No. 9

<奨学金授与式> *米山奨学生 王 冠博 様

<出席報告> *出席委員会 加藤(勲)委員より3月17日の出席報告

| 会 員 数 | 出席対象者数 | 出席数(ZOOM出席数) | 欠 席 数 | メークアップ数 | 出 席 率 |
|-------|--------|--------------|-------|---------|--------|
| 115名 | 100名 | 68名(3名) | 32名 | 15名 | 82.18% |

<ニコニコ報告>

- ・小野 良太郎 様(秦野中RC) 本日はお世話になります。原田さんをお連れしました。
- ・三 役 国際ロータリー第3360地区チェンライロータリークラブパスト会長 原田義之様、
神戸よりようこそ横須賀ロータリークラブへ。
- ・松本 朋、小林(-)、比 護、梁 井、勝 間、鷲 尾、大野 隼、大 石、
石 田、福 西、長 島、久保田、江 口、田 村、小 平、澤 田、
山 下、藤 村、江 沢、小佐野、齋藤 眞、三 堀、杵 渕 各会員
原田義之様、本日は横須賀ロータリークラブにお越しいただきありがとうございます。
卓話も大変楽しみにしています。宜しく願います。

- ・椿、長谷川、福西、新倉 侑、鈴木 豊、徳永、根岸、齋藤 眞、猿丸 各会員
国際ソロプチミスト横須賀 会長小林純子様、会長エレクト渡辺史子様、会長ノミネー町田久子様、米山奨学生 王冠博様、ようこそ横須賀ロータリークラブへお越しくださいました。本日の例会は最後までごゆっくりお過ごしください。
- ・佐久間 会員 王冠博さん卒業おめでとうございます。そして歯科医師国家試験合格おめでとうございます。卒業式の代表謝辞はととも立派にできました。御両親もお喜びのことでしょう。
- ・鈴木 隼、岡田 慎、小山 慎、田 邊、小山 陽、佐久間、浅 葉、齋藤 眞、小佐野 各会員
秦野中ロータリークラブ会長 小野良太郎様、ようこそ横須賀ロータリークラブへお越しくださいました。例会もごゆっくりお過ごしください。
- ・岡田 慎、須 藤 両会員 誕生月祝いとして
- ・8番テーブル岡田英城マスター・木村一郎サブマスター 3月13日、8番テーブルミーティングをアマルフィで長尾副会長、兼城SAA、角井副SAA、三宅さんにも出席頂き総勢16名で賑やかに開催させて頂きました。皆様ありがとうございました。
- ・曾 我、長 尾、杉 浦、新倉 侑、小山 陽、齋藤 眞、角 井、兼 城、杵 渕 各会員
3月13日(月)、8番テーブルミーティングをヴェルニー公園のアマルフィマイナブルーで開催しました。美しい夕焼けをバックに岡田英城会員、濱田会員、木村会員、鈴木隆裕会員差し入れのシャンパンで乾杯。美味しいお料理には齋藤眞且会員からのワインで最高なディナーを堪能しました。岡田マスター、木村サブマスター大変お世話になりました。
- ・加藤 慎 社会奉仕委員長 3月12日(日)に10,000メートルプロムナードクリーン作戦を参加者500名で愉しく、事故なく終了いたしました。当日は天気にも恵まれ参加された会員の皆様、本当にありがとうございました。
- ・児 玉、久保田、上 林、谷、萩 原、齋藤 慎、浅 葉、田 中、物 井、兼 城 各会員
侍 JAPN やったぜ!! 準決勝進出!! 次戦も楽しみですね。

<卓 話> 「輝く瞳に会いに行こう」

RI第3360地区チェンライロータリークラブ元会長
アカ族子供就学支援基金(日本)代表/
タイ国立ダムロン高校(日本語、日本文化担当)ボランティア教師
神戸市教育委員会 生涯センター(国際関係論)講師
原 田 義 之 様



ご紹介頂きました原田義之です。私は16年前からタイ国北タイのアカ族の住む現地に入って奉仕活動を行っています。さらに、アカ族が住む地域に近いロータリークラブRI3360地区、チェンライロータリークラブの会員でもあります。それまでは兵庫県高砂青松ロータリークラブに入会しておりましたが、退路を断ってアカ族の子どもたちに支援をしようと考え、この様な奉仕活動を行っています。

① 行動する国際奉仕の契機は

16年前から北タイ・アカ族貧困現地に入り、さらにアカ族が住む最前線のRI3360地区(タイ国北タイ)チェンライRCに移籍して退路を断ち、3足のワラジを履き奉仕を始めました。1足目のワラジというのはチェ

ンライRCに移籍をして翌年には第47代チェンライRCの会長を命じられました。日本に国籍があり日本に在住して日本人がチェンライRC会長というのは私がタイ国のロータリークラブで初めてでございます。2足目のワラジというのは、北タイ・ダムロンラドソククロ高校にボランティア教師として現在も教壇に立ち、週末はアカ族の子どもたちの支援をしております。そして3足目のワラジは、「夢の家」「センスツク」寮で識字向上の支援をいたしております。タイ国北タイ・チェンライは記憶に新しい、タムルアン洞窟で13人の遭難事故が起こった場所です。チェンマイはバンコクから北に830km(東京～青森)の位置になり、そして私が居るチェンライはチェンマイから230km北上した所になります。そして今日覚えていただきたい地名があります。チェンライから更に上に60km北上した所がメーサイになります。これはミャンマー、ラオス、タイの国境の町です。チェンライからメーサイまで60kmであるということをご記憶頂きたいと思っております。

② アカ族子供との関り

私は今から20年前に北タイの小学校に図書寄贈を始め5年ほど続けました。5年という年月で北タイの事を深く知ったことは北タイの小学校は多種に亘る少数民族の子どもたちを預かって教育をしています。それぞれの民族の言葉を話す子どもたちにタイ語を教えることは大変だぞ、ということで15の小学校に特別図書の寄贈をしました。その寄贈式で出会ったのがアカ族の青年マリアさんです。マリアさんは私にこう言いました「アカ族の子供寮に入れぬ多くの子たちは識字機会がない15、6歳から重労働や麻薬の運び屋になります。また、娘たちは識字のない父親に好まぬ労働を強いられている。原田先生、子どもたちに識字向上支援を・・・。」と涙ながらに懇願されました。私はマリアさんとの出会いでこのアカ族の子どもたちに識字向上支援をする事を決意しました。

③ ダムロン高校との出会いと私

マリアさんとの出会いでアカ族の子どもに識字向上支援を決意し、帰国後の週末土、日の昼は兵庫県にある国際協会開催の「外人向け日本語講習」に通い全教程を「修了」しました。また、夜は三宮のタイ語教室に通いタイ語を習得し、北タイ行きの準備をしました。60歳の手習いならぬ「夢多き64歳の手習い」でした。さて、私はアカ族の子ども寮「夢の家」のあるチェンライへ行きました。そのチェンライには日本語学科のあるダムロンラドソククロン高校があったので、私は校長に「この学校で日本語を教えさせてください。私は64年間日本人をしています。外国人向け日本語講習の学校も出ました。教える資格も取りました。」と直談判をしました。以来、16年間教壇に立ち続け、週末にアカ族の子どもに支援をしております。今でもボランティア教師として教壇に立っております。

④ アカ族ルーツと識字向上問題

アカ族は800年前平野部に蒙古の襲撃を受けチベットへ移り、焼畑農業をする回遊民族と化しました。今から100年ほど前には北タイに達しました。北タイでの彼らの山岳生活は民族差別と山岳農業の低収入のため貧困な生活が板に付いていました。1ヶ月1家族働いて3万円。アカ族は1家族約9人です。国連のデータによると識字率が50%台の国の女性の産む子どもの平均数は4.5人で、アカ族の各家族構成は祖父母、父母、子ども5人の9人生活です。さて、子どもが学ぶためのタイ政府の学校は山の麓まで約20km離れたところにあります。とても5人の子どもが毎朝起きて20kmを往復して学校に通うことはできないのです。アカ族の大人集落内では、一生幸せにアカ族の言葉を使って生活を送ることができるでしょう。しかし、アカ族の子どもたちはやがてタイ社会で生きていかなければならないのです。そのためには母国語であるタイ語を学ばなければ識字率ゼロの人生が待っているのです。私は皆さんにお訊きします。皆さんのお子さん、お孫さんが7歳で小学校に通った時に初めて日本語を話したというお子さんはおられますか？アカ族の子どもは恵まれた子どもだけが学校に行けて、初めて母国のタイ語を身につけるのです。この子どもたちに識字支援を行うために子どもたちを山の親元から20km離れた村の「アカ族子供寮」に移して、そしてその子どもたちの生活費と学費を支援しました。これが私が16年間続けてきた支援です。

さて皆さん、ロータリーもよく使う言葉、識字率についてお話をいたしましょう。識字率とは一つの国の15歳以上の成人が自分の国の言葉をどの程度話せるか、使えるか、これが識字率です。タイの国の識字率は92.8%で世界でも識字率の高い国です。パキスタンやバングラデシュなど、いまだ識字率が50%台の国もあります。先ほど言った通り、識字率50%台で一人女性の産む子どもの数は4.5人、したがって識字率

の低い国では人口問題になっている。人口問題は食料の問題を引き起こします。食料を作るには化学肥料が必要となり、化学肥料を作るには工場が必要になり、工場はエネルギー問題や環境問題を生み出します。私たちロータリーは識字率を上げることによって、この限りある地球という地球規模の環境活動がまさしく識字率向上運動ではないのでしょうか。アカ族の識字率は56%です。今でも学ぶ機会を得られなかった15、16歳の男の子は町で日当1500円を稼ぐために菌を食いしばって働いています。また、識字のない女の子は山にとどまり、山で華僑が経営する茶畑で茶摘みをしています。皆さん見てください。お茶っ葉1kg摘んだら3バーツ（1バーツ＝約4円）です。1kg摘んで12円です。頑張って50kg（600円）を摘まないと生活ができないので、女の子は朝早くから夜遅くまで頑張っています。これが北タイにおける識字の無い子どもたちの現状です。

私は先ほどチェンライから国境、メーサイまで60kmと言いました。国境では麻薬取引地帯となっていて、重労働に耐えかねた識字の低い男の子、また、家族を養う手段に誤った父親は麻薬の運び屋になり、逮捕されると投獄20年の刑になります。識字の無い15、6歳の女子は無識字の父に1km離れた首都バンコクでお酒を飲む仕事に就かされ、やがて幾人かの娘はエイズを患い1km離れたアカ族村の母の元に泣き泣き戻ります。北タイ・アカ族の子どもにとって「識字向上」の重要性がご理解頂けたでしょうか。

⑤ 識字に目覚めれば

子どもたちは衛生的な環境のもと1本の鉛筆、1冊のノート、1冊の図書を欲しがります。2014年ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんの訴えに通じます。彼女は17歳で「女子の教育を受ける権利」を訴え、イスラム過激派武装勢力に銃で頭部を撃たれながらも国連本会議場で「一人の子供、一人の教師、一冊の本、一本のペンでも世界は変えられる。教育こそが、ただ一つの解決策です。」と切々と訴えました。私はタイ人からは今でも厳しい差別があり、極貧農家の多いアカ族子供たちにマララさんの切なる訴えを実現すべく「真の識字向上支援」を単に母国語・タイ語習得に留まらず本人の能力に見合った人材に育つまで支援しています。教え子のアカ族のフレンドは高校3年間を日本語成績トップでした。私は彼女の家に家庭訪問に行きました。焼き畑農業8人家族で月収3万円。妹さんは重度の障がいでおりました。彼女は小学校4年から親の学費を当てにせず、アカ族子供寮で学び成績優秀で学費免除になりました。その後、ダムロン高校日本語科に進み3年間成績トップでしたが、彼女に「進学」の2文字はありませんでした。私は彼女を日本に留学させて民族差別を跳ね除けさせたい、こんな優秀な子がアカ族の差別を背負ったままでいいのだろうかの思いで、日本留学支援を実現させました。私は帰国後の彼女に奨学資金支援を行い、彼女は地元ラチャパット大学日本語科で4年間成績トップを貫きました。2度目の日本留学は日本政府招聘留学生を自ら勝ち取り国立愛知教育大学で学びました。現在は、お世話になったアカ族子供寮で奉仕をして恩返しをしながら、その傍らで日タイ語翻訳家の夢を目指して勉学中です。彼女の努力と成長、そして夢こそがアカ族の子どもへの「真の識字向上支援」ではないのでしょうか。

⑥ 里親支援

幸いにも私は今日のこの卓話も含め全国でお話をしています。全国のロータリアンは「おい！原田頑張れ。」と言ってアカ族子供就学支援基金を設立して私の国際奉仕を支援してくれています。私は自らこの十数年間のアカ族子どもたち支援の実態を二冊の著書に纏めました。その印税をアカ族子ども支援に充てています。先ほどの基金は里親制度を設けています。私と巡り合わなかったら識字機会を得られなかったであろう34名を里親として支援をいたしております。里子は日本のお父さん、お母さんにこのような手紙を送ってくれます。そして里親をしているロータリアンは現地まで子どもに会いに行くというような交流を今も続けております。

⑦ 真の貧困解決は自活サイクル支援

2006年にノーベル平和賞を受賞したムハマット・ユヌスさんはこのように言っています。「貧困は貧困者自ら生み出したものではない。歴史の優位者、支配者、そして社会制度国家が生み出したものである。人間誰しも生きるため自活しようとする。また健康であろうとする。貧困者たりとも一緒だ。施しと善意はむしろ自らの生活向上心をそぎ、真の貧困の解決にはならない。単発的な施しではなく持続可能な自活サイクル支援こそが貧困を救う。」私は「夢の家」に畑と鋤と苗を与えました。子どもたちは自分たちで食べ物を作り、そして残りを市場に売りに行き、自ら学ぶことができます。「若竹寮」はニワトリ小屋を作っ

てニワトリを支援しました。子どもたちはまず栄養をとって残りを市場に売りに行って学費に充てています。「センスツク寮」は豚小屋を作り、10匹(6kg)の豚を支援しました。子どもたちは毎朝毎朝面倒を見て60kgになった豚を市場まで連れて行ってお金にし、また6kgの豚を10匹買ってきて飼育するという「持続可能な生活サイクル」を営んでいます。

⑧ アカ族に「水支援」と「衛生支援」を

アカ族に必要なのは水支援と衛生支援です。国際ロータリークラブは6つの重点策を掲げています。その中にこの水と衛生が入っているはずですが、北タイには地下水、雨水、川などの水源があります。けれども、雨季と乾季がはっきりしているために雨水に頼ることはできない。山から水を引く事が我々ロータリーに求められる支援でした。タイの水は硬水のため直接飲めないため浄水器が必要になります。アカ族の人たちはロータリーが支援した浄水器を「命の水のプレゼント」だと言います。全18学校、子ども寮にこれまで浄水器を支援し、バン・カーン村など21の村に支援をしまいいりました。モーメン村にも支援しました。実はこの村は30年前からアカ族とリス族が水源をもとに争っていたのです。両方支援した結果、日本のロータリー支援で村に平和が訪れたと看板を掲げてまで喜んでくれています。バーン・メーサレ村への水支援では水源までが5キロあり、女性は朝早くから川下まで行って昼までにお水を沢山持って登って来るのが日課なのです。水の支援をただけでもアカ族女性の朝から昼までの人権を回復させる事ができました。ひねったら1秒で飲める水。これも立派な支援です。そして衛生環境を見てください。この汚いトイレ、覗けば中が見えるようなトイレ。ここに28人の女の子が朝40分から50分順番を待ってから学校に行く。彼女らの体にいいはずがありません。ここに衛生支援というのが必要となっています。ホイ・サンマイ村にもこのような支援を致しました。センテックの女子寮を見てください。外壁は全て竹組の寮です。男子寮には窓もありません。蚊の媒介でデング熱やマラリアによる死との隣り合わせの状況になっていたため、女子寮と男子寮を全面改修支援し寮生は死の恐怖から解放され識字向上に励んでいます。

⑨ コロナ禍にあっても

長年続けた子ども支援も新型コロナウイルスの影響に遭い、私もタイに入国する事ができませんでした。けれども、昨年の初めからタイ政府は厳しいながらも入国を許しました。私はタイ政府指定のコロナ対策ホテルに14日間隔離され、それから子どもたちの支援を再開しております。この子どもたちの笑顔を見てやってください。久しぶりの支援でまずは子どもたちの半年間の消耗品を支援すること。めったに食べることのない肉料理(タイの料理のムガタ)を支援したこと。そして今はミャンマーの軍政の迫害から逃れた子どもだけで20人が難民キャンプに来ています。この子どもを救うために20人用の部屋を作り引き取っております。そしてトイレも作り、冬なので防寒服の支援をいたしております。

⑩ アカ族支援からの学び ⑪ 奉仕の使命感は、不変

「私が奉仕します。」「行動で奉仕します。」自らの手と足で奉仕の山を16年間登ってきました。この山をロープウエーで簡単に登ることはできるでしょう。しかし、長年自分の手と足で感じ取り、行った奉仕から4つの学びを得る事ができました。1つ目は「継続は力なり」を体感。2つ目は私の造語「奉仕三方よし」を実感。3つ目は「奉仕は現地の相手目線で」がカギと知り、4つ目は「人生、今が一番若い」だから・・・これまでも奉仕の夢を追い、そして今も夢を追い続けています。奉仕の使命感は変わりません。アカ族の子ども支援を私は続けます。目の前のアカ族の子どもたちが麻薬の運びや売春エイズを流行らす悪の呼び込みにさせたくないのです。現在年齢は79歳6か月、来年80歳になります。幸せな事に今まで沢山の人にお世話になって生きて行く事ができました。一人の日本人、一人のロータリアンとして北タイ貧困前線のアカ族、村人、子どもたちを微力ながら支援をしまいいります。ご静聴ありがとうございます。

<閉会・点鐘> 13:30 前田 会長

週報担当 比護 友一 ・ 大石 朗